

気温上昇で心臓血管病関連死リスクが高まる

高温への曝露は心臓血管病に関連する危険因子として重要であるものの、一貫した結果は得られていない。高齢集団では、高温への曝露が健康に影響する可能性がある。また、高温への曝露と心臓血管病リスクとの関連には、気候帯の違いも影響していることが考えられる。本研究では、高温または熱波への曝露と心臓血管病の関連について、気候帯の違いも考慮した系統的レビューおよびメタ分析を行った。

1990年1月1日から2022年3月10日までに発表された文献をPubMed、EMBASE、Scopusを用いて検索し、266件を対象に解析を行った。その結果、気温が1°C上昇するごとに心臓血管病関連死リスクは2.1%上昇し、脳卒中と冠動脈性心疾患で高かった。また、心臓血管病罹患リスクについては、気温上昇によるリスクが高かったのは不整脈と心停止、冠動脈性心疾患であった。高温により心臓血管病の罹患や死亡リスクが高まる傾向にあるのは、性別では女性、年齢層は65歳以上、熱帯地域の住民、低～中所得国であった。また、熱波については、心臓血管病関連死リスクは11.7%上昇し、熱波の程度が高いほどリスクも上昇した。

今回のレビューより、気温が1°C上昇するごとに心臓血管病関連死リスクは2.1%上昇し、高温への曝露で心臓血管病リスクが高まるというエビデンスが強化された。温暖化と高齢化がさらに進むと、心臓血管病の悪化症例が増加する可能性がある。

出典：Lancet Planet Health. 2022 Jun;6(6): e484-e495.